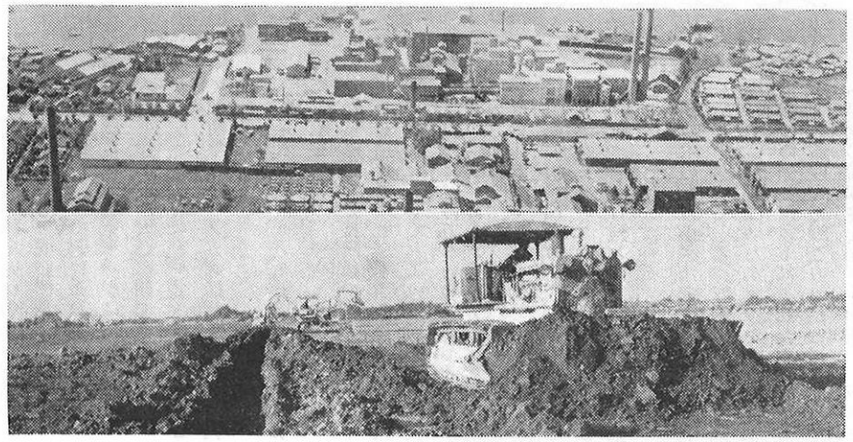
〈特集〉

工業開発と農業の近代化と

★地域開発（県計画）の指標――城南地区



城南地区は県計画における新産地域として九州西部開発の中枢的拠点であり、また振興、開発地域として農林漁業の近代化や立地条件の総合的な開発など飛躍のための課題は多い。これら開発の柱を中心に今後の問題点をいくつか拾ってみた。

♣はじめに……

本号から新しい企画として、県計画における地域開発の問題点を、それぞれの地区にスポットをあてていくことにしました。なお地区別の分け方は便宜上、次のとおりにしました。

◇城南地区（八代・芦北・宇土・上益城・下益城郡と八代・宇土・水俣市）
◇城北地区（玉名・菊池・鹿本郡と荒尾・玉名・菊池・山鹿市）
◇天草地区（天草郡と本渡・牛深市）
◇阿蘇地区（阿蘇郡）
◇熊本中央地区（飽託郡と熊本市）
◇球磨地区（球磨郡と人吉市）

地区のあらまし

ここにいう城南地区には、熊本、宇土、上、下益城、八代、水俣、芦北の市郡を含めることとした。本地区は、有明海、不知火海臨海部、緑川流域部ならびにこれらの背後地にあたる地区で、風光明媚な有明海、不知火海沿岸、緑川、球磨川によって開けた肥沃な熊本平野、八代平野と、これらにつらなる台地、山間部など地理的にも変化に富んでいる。

さらに、この地区は、九州における産業、観光の大動脈である国道三号線、同五七号線が交叉する極めて重要な陸上交通の要衝であり、今後、九州縦貫自動車道の建設、鹿児島本線の複線化、電化等により、ますますその地位を高め、開発発展の可能性を有している。

また、本県の重要港湾である三角港、八代港、水俣港はすべてこの地区にあって、海上交通の要衝でもある。

これらの港湾の整備とも相まって、八代、水俣は、県下屈指の臨海工業地帯を形成しており、特に八代は、本県工業開発の最大の拠点として、開発が進められており、また、三角は貿易観光港として発展が期待される。

農業面では、熊本平野、八代平野など本県における大生産地帯であり、緑川総合開発、八代平野土地改良など、スケールの大きい基礎条件整備が進められており、また、宇土半島、八代山麓、芦北海岸などに果樹の集団産地が形成され、農業の近代化が進められている。

さらに観光面では、三角大矢野海辺、矢部、芦北海岸などの県立公園を中心に、立岡、雁回山、立神峡など、すぐれた観光資源を有し、今後の開発が期待される。

このように城南地区は飛躍的開発発展の可能性を秘めており、今までも着実な開発が進められてきたが、なお域内連絡道路など未整備のものが少なくない。また毎年災害に悩まされ、河川改修、防災ダムなど緊急に手をつけねばならない事業も多い。

このような地区の実情に即して今後の開発を進めるにあたって、豊かな県民生活の実現をめざす県計画においては、開発上の地域区分をして、それぞれ地域別施策の方向を示している。それによると、本地区は、おおむね「新産地域」と「振興地域」で、若干の「開発地域」を含んでいる。

新産地域（不知火有明大牟田地区）は、九州地方西部における開発の中枢的拠点として、本県はもとより、周辺関連地域の経済、社会文化を積極的に引き上げて行く役割を果たす地域である。

振興地域は、新産地域の周辺に位置し、その直接の波及効果を受け、新産地域と密接に関連しながら発展すべき地域である。

開発地域は、地域の特性に応じて農林漁業の近代化の推進、その他立地条件の総合的な開発を図るべき地域である。

この地域区分による地域別施策の方向に基づき、城南地区の開発の姿をみると、次のような開発の柱をたてることができよう。

開発の柱

新産都市建設の促進

建設基本計画（昭和五十年までの長期計画）に基づき、四十五年までの前期は、実施計画である「施設整備前期計画」によって、産業基盤施設、生活環境施設、都市施設の整備を計画的、効率的に行ない、後期開発への基盤造りをはかる。

交通施設の整備

陸海交通の要衝である地区の特性ならびに地域開発における交通施設の重要な役割を考慮して、特に開発の重点を交通施設の整備におくものとする。

幹線道路は近年整備が進められており、さらに九州縦貫高速自動車道も近く着工されるので、地区の産業、観光の開発をはかるため、域内連絡道路網の整備を促進する。

また、重要港湾およびその他の港湾の整備を進める。

農林漁業の近代化

今後、都市化、工業化の促進に伴ない、近郊背後地農業への構造変化が要請されるので、八代平野土地改良、緑川総合開発、氷川総合開発、その他基礎条件の整備を促進し、農業所得の基盤である水稲の省力化を進め、その上に果樹、畜産、そ菜、特用作物など成長換金作物の有利な進展を図る。

林業では、森林資源の拡大と早期育成林業の促進、林道網の整備を図る。

水産業においては、沿岸漁業構造改善事業等によって所得の増大を図る。

国土保全事業の促進

この地区は、洪水等による被害を毎年相当受けているので、治水の抜本的対策として、緑川、球磨川等の河川改修、天君防災ダムその他海岸保全事業、治山、砂防事業の促進を図る。なお、農業等とも関連して、緑川総合開発、氷川総合開発の治水効果に期待する。

観光開発

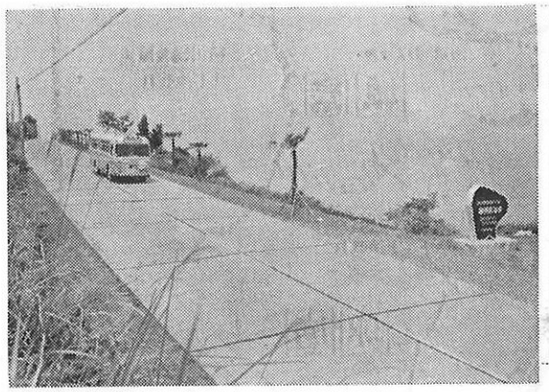
九州横断道路に続いて、今秋完成をみる天草五橋などにより、ますます観光の発展が期待されるので、地区の地理的条件から南北九州および天草と結ぶスケールの大きい観光ルートの整備が必要であり、三角大矢野海辺、矢部、芦北海岸県立公園を中心として、観光ルートの開発、観光資源の開発を進める。

×　×

城南地区は、相当広域にわたるので、便宜上の次の四ブロックに分ける。

○宇城…宇土市、宇土郡、下益城郡
○上益城…上益城郡
○八代…八代市、八代郡
○芦北…水俣市、芦北郡

なお、各ブロックごとに、開発上重要と考えられる三つの柱をたてて開発のあらましを掲げることとする。



改良進む宇土・三角間の沿岸道路…■

宇城

この地区は、おおむね宇土半島部と緑川流域部で、県の中央部を東西に伸びており、県計画の地域区分では、宇土市外七町村が新産地域で二町村が振興地域である。

新産地域の二大拠点である熊本地区と八代地区とを有機的に結ぶとともに、周辺地域に開発効果を及ぼす重要な地区である。

新産都市建設の促進

国道三号線の改修、熊本市域の拡大発展等に伴ない、熊本市から宇土市までの国道筋は連たんしつつある。宇土市には、従来から化学工場等の立地がみられていたが、最近金属製品、セメント二次製